

# 豊田景気実感調査



Viewing over Our Toyota's Economic Condition

第10号

発行日 2016.6.3

## 平成28年5月 調査結果 “晴れの垣間見える曇り模様。まさに踊り場の様相。”

	現状判断D I				先行き判断D I				水準判断D I			
	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合
豊田	46.6	45.3	48.4	46.2	46.2	51.0	45.3	48.0	46.7	50.5	50.0	48.4
全国	42.2	45.0	48.9	43.5	45.3	45.3	47.8	45.5	40.3	44.6	54.2	42.6
東海	44.6	—	—	44.7	44.1	—	—	44.8	41.7	—	—	42.7

【天気図の見方】 大きな晴れ：D I 60点以上／晴れ：D I 50～60点未満／曇り：D I 40～50点未満／雨：D I 40点未満

### 【まとめ】

今回の調査結果は、株安、円高という経済状況下において発生した1月の愛知製鋼の事故に加え、4月の熊本地震による自動車生産活動への悪影響を懸念する声、依然続く賃金、消費の伸び悩みを反映する形で、総合D Iは前回調査時（27年11月）に比べ大幅低下となりました。これまでの最大の特長の1つであった豊田の全国・東海比での景気実感（マインド）の優位性も大勢としては引き続き維持されましたが、一部の業種においては劣位に転じており、豊田における経済の好循環実現に向けて、今はまさに踊り場にあると言えるでしょう。

1. 豊田の総合D I指数は、現状・先行き・水準判断においていずれも曇りとなり、前回調査対比では大幅な悪化となりました。家計、企業、雇用の部門別には、一部部門で晴れ（DI50以上）は見られるものの、全ての部門で前回調査対比悪化となりました。特に、雇用のミスマッチが解消されていない様子の雇用部門においては景気実感の大きな後退が見られました。
2. その一方で、今回調査で目立ったのが、飲食業の全国比優位です。景気モニターの声の中に愛知製鋼の事故や熊本地震による自動車生産調整の影響で、従業員の休暇が増え、それにより逆に外食を呼び込む状況になったというものがありました。多分にこれを反映しているのではないかと推察されますが、自動車関連企業の集積地の特質とも見られます。ただ、先行き判断DIの上昇に繋がるものではなく、あくまで現状では一過性のものに止まっています。
3. 特別調査では宝くじの消費割合、幸福度において2極化が進んでいることが観察されました。所得見通し調査では、所得増への期待感が一層薄れています。また、実施延期の首相表明前の消費税増税に関する意識調査も行いました。今回の意識調査結果では、延期前の増税に伴う景気への負の影響や増税後の消費行動の抑制が強く意識された結果となりました。従って、延期に伴いこうした負の意識が今後どう変化するのか、注目すべき視点も一つ明らかになった結果となりました。

1. 調査期間：平成28年5月9日～27日

2. 調査客体：300名（家計/企業/雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感にキャッチ出来る方）

3. 有効回答：250名 / 有効回答率：83.3%

4. 調査項目：  
 ・ 2～3ヶ月前から現在までの景気の変化をどう感じますか？ ⇒ 現状判断D I  
 ・ 現在から2～3ヶ月後までの景気の推移をどう予想しますか？ ⇒ 先行き判断D I  
 ・ 現在の景気的水準をどう判断されますか？ ⇒ 水準判断D I

5. D I算出方法：

評価段階	5	4	3	2	1
現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
水準判断	良い	やや良い	どちらでも	やや悪い	悪い
付与点数	1	0.75	0.5	0.25	0

各判断項目につき、評価5段階別の回答数の合計を出し、5段階別の構成割合（100%比）を算出します。その各構成割合に上記の付与点数を掛けて合計値を算出します。その合計値がD I値です。この算出方法からD Iは“景気実感評価に対する人気投票”とも言えます。

本調査は、豊田市に居住または勤務されている個人の方を対象に、身の周りの景気の実感を聞く調査です。豊田商工会議所と豊田信用金庫とが協同し半年に1回（5月/11月）実施しています。内閣府の「景気ウォッチャー調査」（こちらは毎月実施）の内容に準じて実施しています。全国との比較は、内閣府調査の4月結果と対比しています。

なお、特別調査として、豊田市の消費動向、消費税関連、マイナス金利、電力の自由化に関する意識調査も行いました。また、自由回答でいただいたモニターの皆様のご意見も抜粋して掲載させていただいています。

<調査にご協力頂いた皆さまに心よりお礼申し上げます。>

<問い合わせ先>  
 豊田商工会議所：深見  
 0565-32-4593  
 豊田信用金庫：高橋  
 0565-36-1384

# 概 括

# 業種別D Iの 前回調査比 / 全国比

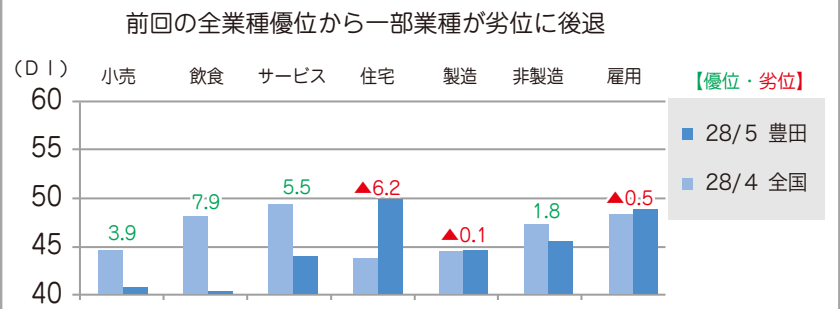
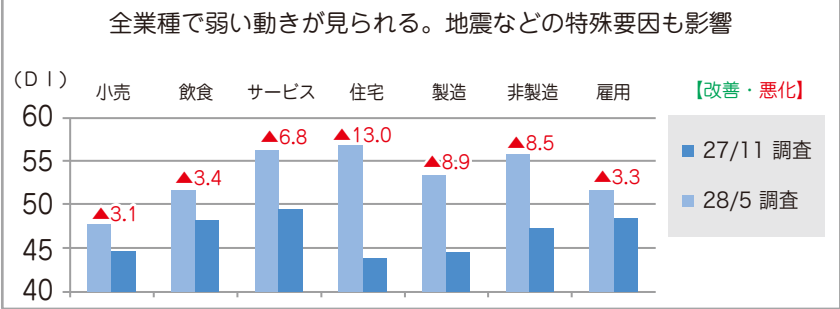
## 現状判断

総合DI (豊田)  
 前回 52.7 → 今回 46.2

総合で曇り。全業種とも前回比悪化し、全て曇り。前回比では、住宅、製造、非製造がやや大きく後退。  
 全国比では、前回の全業種優位から、今回は住宅、製造、雇用が優位から劣位となった。一方、小売の優位が拡大し、飲食、サービスでも高い優位を維持。

豊田  
 前回調査比

全国比



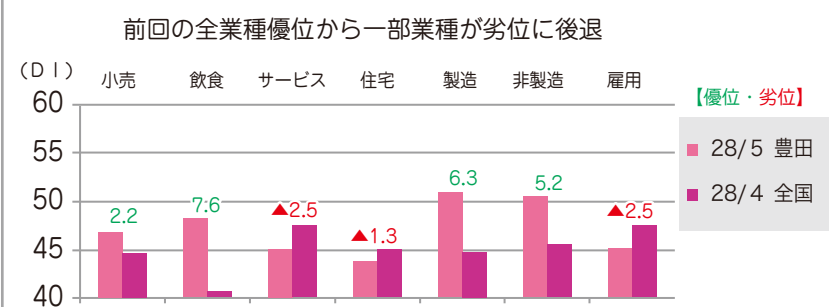
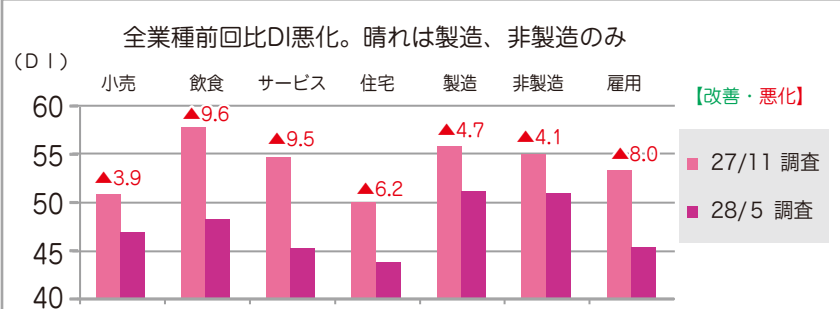
## 先行き判断

総合DI (豊田)  
 前回 54.0 → 今回 48.0

総合で曇り。全業種で前回比悪化し、晴れは製造、非製造のみで、残りの業種は全て曇り。前回比では、飲食、サービス、雇用の後退がやや大きい。  
 全国比では、前回の全業種優位から、サービス、住宅、雇用が優位から劣位となった。なお優位業種の優位幅に大きな変動はない。

豊田  
 前回調査比

全国比



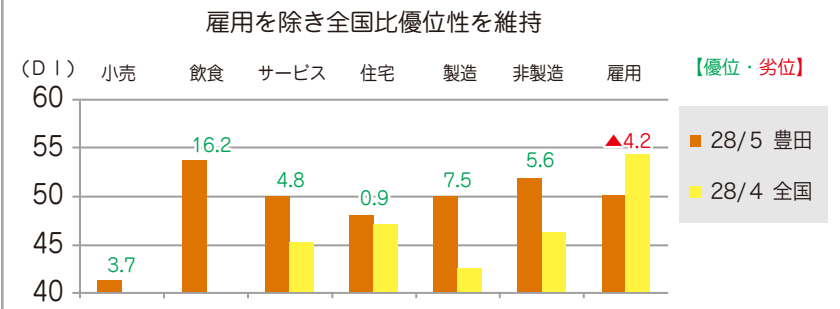
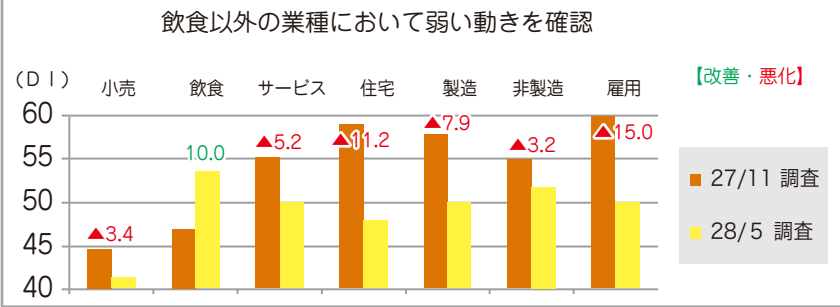
## 水準判断

総合DI (豊田)  
 前回 53.5 → 今回 48.4

豊田は総合で曇り。飲食を除く業種で前回比悪化し、晴れは飲食、非製造のみで、残りの業種は全て曇り。前回比悪化幅は、雇用、住宅が大きい。  
 全国比では雇用を除き優位を維持したが、小売が劣位から優位、飲食が優位幅拡大の一方、住宅、製造の優位幅がやや大きく後退。

豊田  
 前回調査比

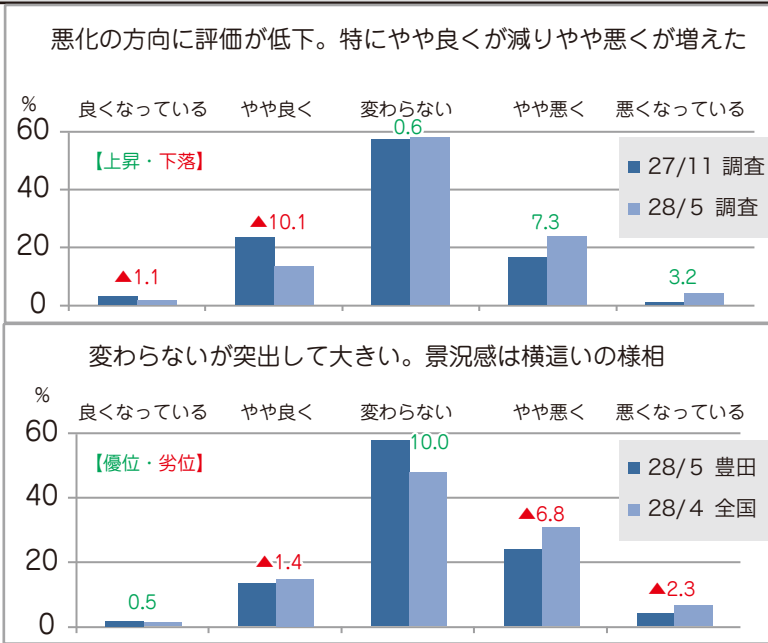
全国比



## 評価段階の前回比 / 全国比

## 景気モニター生の声

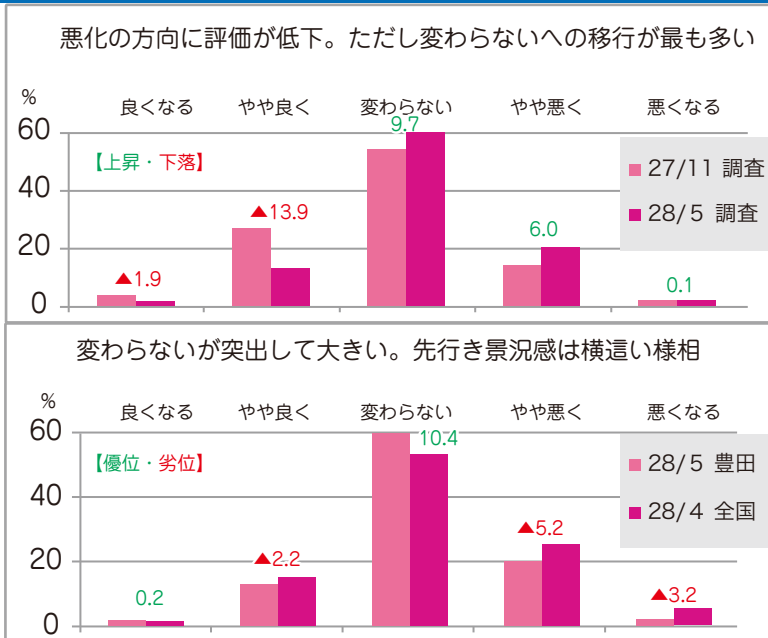
豊田：前回比



< + : 回復感あり - : 回復感なし >

- + : ビジネス、観光、外国人利用者の増加が見られる。(都市型ホテル従業員)
- + : 徐々に金額の大きい案件が出てきている。(電気機械器具従業員)
- + : リフォーム、設備更新の注文が増加している。(通信業経営者)
- : 季節連動(卒業、入学、連休)需要が極端に少ない。(商店街代表者)
- : 愛知製鋼、熊本地震による生産ライン停止の影響。(金属製品経営者)
- : 大手メーカーの再編により仕事量が減少している。(一般機械経営者)
- : 新卒者の車購入量の減少、買替えサイクルの長期化。(自動車部品販売店経営者)
- : 顧客高齢化による来店数の伸び悩みが見られる。(衣料品専門店経営者)
- : どこを見ても冴えない様子。不景気風が吹いている。(その他サービス従業員)
- : 慎重な買い物姿勢。領収書をしっかりと持帰られます。(一般レストラン従業員)

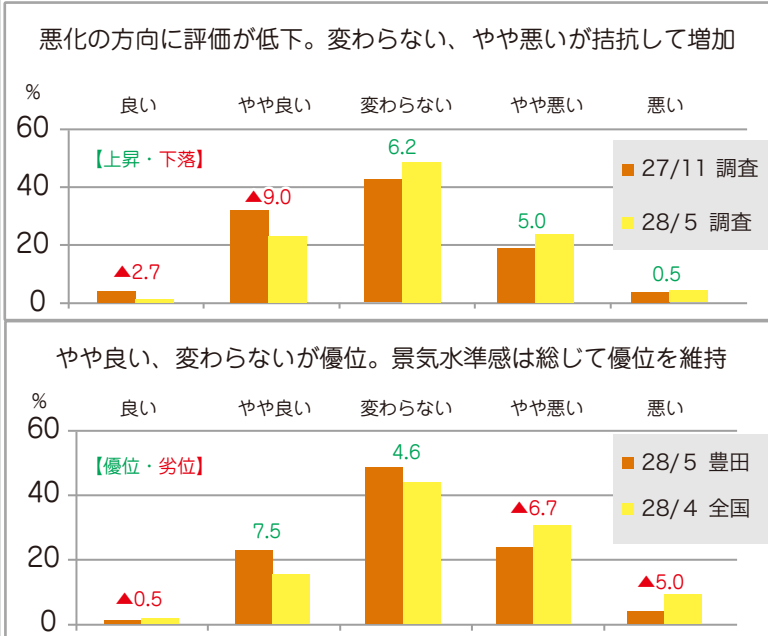
豊田：前回比



< + : 回復感あり - : 回復感なし >

- + : 自動車関連企業の休暇増による来客数の増加見込み。(飲食店経営者)
- + : 新規プロジェクトや物流関連の設備更新計画あり。(金属製品製造業経営者)
- + : 新車系の立上げなど後半期の計画が目白押し。(輸送用機械器具従業員)
- : 物価上昇感に収入が追い付いていかないと思う。(一般小売販売店経営者)
- : 熊本地震、円高、株安、テロ脅威など不安が多い。(旅行代理店社員)
- : 後継者不足や仕事確保の不安、廃業先も増えている。(設計事務所経営者)
- : 利用者が例年比30%減少。歯止めがからない。(タクシー運転手)
- : 中国経済の急減速とマイナス金利の悪影響を懸念。(住宅販売会社経営者)
- : アメリカ大統領選挙の行方など注視している。(出版関連経営者)
- : 良い案件に対する受注競争の激化が見込まれる。(建設業経営者)

豊田：前回比



### 自由回答：景気モニターからの声 “一部紹介”

- ・日本全体から見れば愛知県は恵まれている。現状維持で十分。
- ・若年者における経済格差の拡大に懸念を覚える。日本の将来を議論する場を提供して欲しい。
- ・政情、天災、円高など不安要素が多すぎる。事業投資や消費購買に踏み切る気になれない。夏の選挙で不安が解消されることを祈ります。
- ・消費税10%は止む無し。但し、軽減税率は複雑。
- ・思いがけない熊本地震でした。何れ来る震災への備えが必要である。耐震補強や耐震診断(行政支援)、2週間程度の食糧確保など順番に進めたいと思います。
- ・マイナス金利政策が開始されても、中小零細企業に対する金融機関の貸出姿勢は変わらない。地域性や将来性を鑑みた金融機関運営を行って欲しい。
- ・マイナンバー、個人情報保護に過剰反応しすぎである。金融機関や商工会議所が率先して知識(仕組みや危険性)を啓蒙していくべきである。

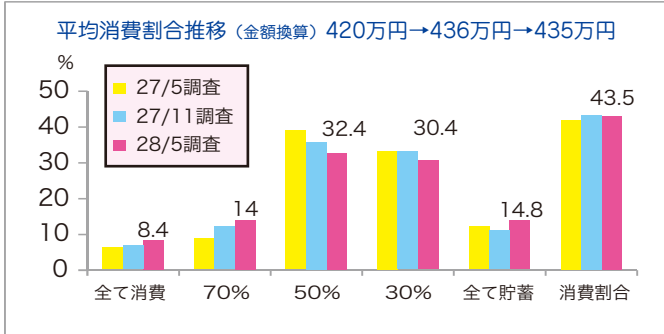
～ 貴重なご意見、ありがとうございました。～



# 【特別調査】

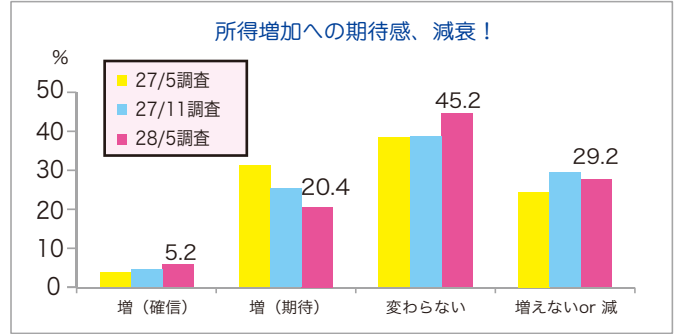
## 豊田市における消費動向・見通し・幸福度の調査（24年～継続調査）

宝くじ1000万円が当たった場合、何%を消費に回しますか？



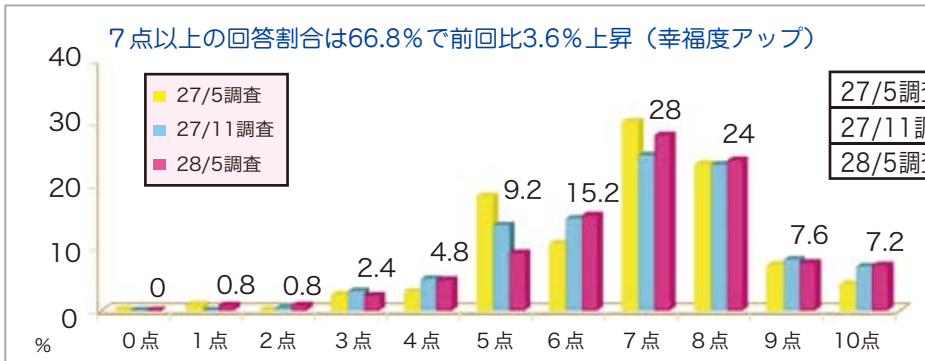
平均消費割合は43.5%と前回比若干減となりました。割合別には、30～50%の中間層が大きく減少し代わって、70%以上と全て貯蓄が増加しています。平均消費割合の**両極化の傾向が強まりました。**

今後、所得は増えていくと思いますか？



所得増（期待）の割合が前回比5.2%下落し、変わらないの割合が5.3%増加と、期待感の減衰が見られます。因みに、所得増（確信+期待）は26%（前回30%）まで低下しました。

あなたはどの程度幸せですか？（とても幸せを10点・とても不幸を0点とした幸福度を調査）



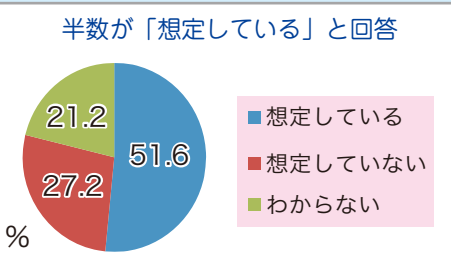
	0点～	4点～	7点～
27/5調査	3.3	31.9	64.8
27/11調査	3.5	33.3	63.2
28/5調査	4.0	29.2	66.8

幸福度は、中間層の構成割合が減り、7点以上が増えました。しかし一方で、3点以下の割合も若干ながら増えています。幸福度についても、景気実感の後退に拘わらず幸せを感じていける方とそうでない方と**2極化する傾向**が窺えます。

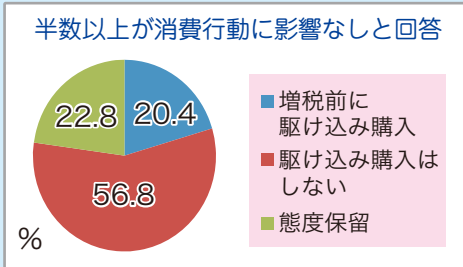
## “29年4月実施予定”の消費税増税に対する意識・消費行動調査

⇒ 今回調査終了後に“消費税増税**実施**の2年半**延期**”の首相表明がなされました。以下は表明前の想定での回答結果です。

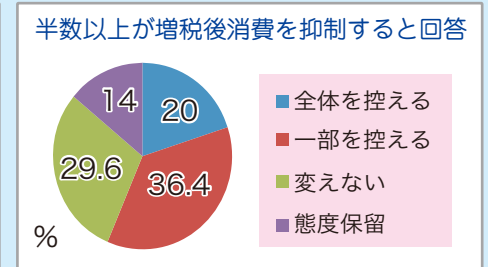
29年4月の消費税増税を想定している？



消費税増税が決定された場合の消費行動は？



消費税引上げ後の消費行動は？

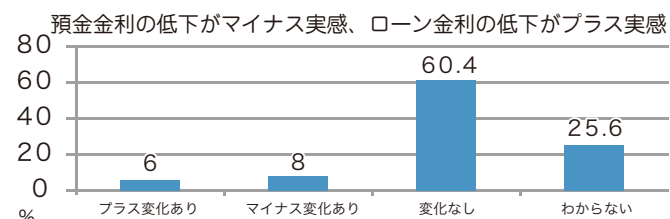


【消費税増税に関する景気モニターの声から】

“増税反対”意見が多く見られました。理由として①消費の低迷に拍車がかかる、②企業の生産活動が減速する、③結果、賃金が増えないという3点が挙げられます。①の消費の低迷についても、今回モニターの方の過半数が、消費者の立場から、増税前の駆け込みはしないが、増税後は消費を抑えたと回答されている。いずれにしても、消費税増税が経済の悪循環のトリガーを引きかねないと懸念されています。

また、今回の景気実感の先行き判断DIの後退に関しても、延期前の消費税増税実施の実現度が高く、その下で影響をある程度織り込んだ結果の判断とも推察されます。従って延期表明が今後の豊田の景気実感判断DIや消費者態度にどう変化をもたらすのか、注視していく必要があります。

## 日本銀行による「マイナス金利」政策。企業活動や生活面に変化はある？



6割の方が現状は「マイナス金利」で目指した効果はないと回答。金融面での影響に留まり、实体经济への波及はまだの様子。

## 電力自由化がスタート。対応状況を調査しました。

当地ではまだ電力自由化に伴う業者変更の動きは小さいようです。

